

地域医療支援病院名称承認に係る審査表

3 独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター

病院の概要	
所在地	新宿区津久戸町五丁目1番
開設年月日	昭和27年10月22日
診療科目	整形外科、形成外科、リハビリテーション科、リウマチ科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、脳神経外科、内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病内分泌科、血液内科、緩和ケア内科、脳神経内科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、精神科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、口腔外科、麻酔科、病理診断科、救急科
重点医療	がん医療、地域医療、救急医療
指定等	東京都指定二次救急医療機関、東京都脳卒中急性期医療機関、東京都がん診療連携拠点病院、東京都災害拠点病院、東京都CCUネットワーク参画施設
病床数	520床（一般病床 520床）

審査項目		申請病院の実績
①	紹介患者に対して医療を提供することとし、次のいずれかに該当すること。 ア 紹介率 80%以上 イ 紹介率 65%以上、かつ逆紹介率 40%以上 ウ 紹介率 50%以上、かつ逆紹介率 70%以上	○ 平成30年度の紹介率 52.8% (A/B) ○ 平成30年度の逆紹介率 73.2% (C/B) ⇒ <u>ウに該当</u> 紹介患者数 7,943人(A) 初診患者数 15,042人(B) 逆紹介患者数 11,004人(C)
②	病院の建物、設備、器械等を地域の医療従事者の診療、研究等に共同利用できる体制を整えていること。	○ 共同利用の範囲 ⇒ 病床、検査機器等 ○ 共同利用件数 ⇒ 共同診療件数 0件 高額医療機器利用 813件 (平成30年度) ○ 共同利用に関する規程 ⇒ 地域医療従事者の施設及び設備等の共同利用に関する規定
③	常時、重症の救急患者に対し医療を提供できる体制を確保することとし、次のいずれかに該当すること。 ア 救急自動車搬送患者数が1,000人以上 イ 救急自動車搬送患者数が救急医療圏（二次医療圏）人口の0.2%以上	○ 医療従事者の体制（夜間・休日） 医師11名、看護師4名、薬剤師1名、放射線技師1名、臨床検査技師1名 ○ 診療施設 MRI室、CT室、検査室、ICU、手術室、内視鏡室、救急処置室、内科処置室 ○ 平成30年度 救急自動車により搬送された患者数4,336人

審 査 項 目		申 請 病 院 の 実 績
④	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することとし、年間12回以上の研修を主催していること。	平成30年度の研修会実績 ○ 講演会、症例検討会等 22回 ○ 地域医療機関からの参加者 236名
⑤	200床以上の病床を有すること。	病床数 520床
⑥	集中治療室、化学・細菌・病理検査施設、病理解剖室、研究室、講義室、図書室、医薬品情報管理室、緊急用又は患者輸送用自動車有すること。	集中治療室(1室、6床)、化学検査室1室、細菌検査室1室、病理検査室1室、病理解剖室1室、研究室1室、講義室1室、図書室1室、医薬品情報管理室1室、患者輸送用自動車1台を有している。
⑦	紹介しようとする医師・歯科医師に診療及び病院の管理運営に関する諸記録を閲覧させる体制を整えていること。	患者サポートセンターにおいて、閲覧できる体制をとっている。
⑧	学識経験者からなる運営委員会を設置し、地域における医療の確保のために必要な支援に係る事項を審議すること。	地域医療推進委員会を設置している。 (委員構成) 地元地区医師会代表 3名 学識経験者 1名 地元行政機関代表 1名 内部委員 4名 計 9名
⑨	患者からの相談に適切に応じられる体制を確保すること。	患者サポートセンターを設置し、常勤のMSWを6名、看護師7名を配置して相談業務を行っている。

東京都知事 殿

独立行政法人地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター
院長 関根 信夫

地域医療支援病院承認申請の趣旨

医療技術の進歩による医療の専門化や高度化が進む中、一方で高齢化の進展にともない疾病構造が変化し、医療が病院完結型から地域全体で支える地域完結型に変わってきています。そのためには、東京都保健医療計画に基づいて、医療機関がそれぞれの機能や得意分野などの特色を発揮し連携することで、地域において切れ目のない良質な医療提供体制を構築することが求められています。

JCHO 東京新宿メディカルセンターでは、医療圏において地域の医療機関と密接な連携体制を構築し、病院とかかりつけ医（診療所等）が診療内容や医療情報を共有し、地域医療の均てん化、効率化、安全性の向上を図り、地域全体で質の高い医療を提供できる体制づくりを進めてきました。

新宿区では大久保病院が平成 21 年に地域医療支援病院の承認を受けておりますが、大久保病院と医療圏がほぼ重ならない当院は、下記の急性期医療だけでなく、回復期（回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟）や慢性期（緩和ケア病棟）の機能を持つケアミックス病院として、地域医療の一層の充実向上に資するため、地域医療支援病院の承認をお願いするものです。

1. がん診療

平成 29 年 4 月に「東京都がん診療連携拠点病院」の認定を受け、医療圏におけるがん診療体制の確立と設備・機能の整備・充実に努め、外来化学療法室、高精度放射線治療センター、緩和ケア病棟、がんリハビリテーション、セカンドオピニオン外来、がん看護外来、がん相談支援センターを整備し、診断から治療、終末期、相談機能に至るまで包括的ながん医療を提供できる体制を構築いたしました。

2. 救急診療

二次救急指定病院として年間 4300 台の救急車搬送患者を受け入れ、平成 11 年から新宿区在宅療養者緊急一時入院確保事業契約病院、平成 24 年から文京区在宅療養者緊急一時入院協力病院として、在宅療養への緊急時の支援も行っています。また、平成 17 年から東京都 CCU ネットワークへ参加、平成 21 年から東京都脳卒中急性期医療機関に登録、平成 27 年東京都災害拠点病院の認定、その他東京都へき地医療支援事業や DMAT の被災地への派遣などを通して、地域医療にも貢献しています。

3. 在宅医療への支援と地域連携

在宅高齢者の特徴である多様なニーズのある患者を受け入れるため、複数の専門医から成る医療チーム（チーム G）を組み、平成 24 年から地域の多職種との交流会を開催して顔の見える連携を進め、平成 28 年に訪問看護ステーションを立ち上げ、新宿区認知症初期集中支援チームの一員として、当院精神科医が患者宅にアウトリーチ支援を行い、地域包括ケアシステムの構築を支えています。また、東京都地域医療構想調整会議の区西部ワーキンググループのメンバーとして、2 人が会議に参加しています。

4. 高度医療

診療所では対応が困難な CT、MRI、内視鏡などの検査機器共同利用、前立腺癌のダヴィンチ手術や放射線トモセラピー、脳神経外科・脳血管内治療科・神経内科・リハビリテーション科が協力し、脳卒中の超急性期から回復期まで対応可能な体制の整備など、高度な医療を提供するとともに、必要な医療を提供した後は速やかにかかりつけ医に紹介することで、かかりつけ医の支援に努めております。